

よくあるご質問と回答:

Arcserve Cyber Resilient Storage

1 全般

Q1. Arcserve Cyber Resilient Storage (CRS) とは何ですか？

Arcserve Cyber Resilient Storage（以下、CRS と略記）は、Arcserve の提供するイミュータブル（不変）ストレージです。お客様の大切なバックアップデータを格納し、ランサムウェア等のサイバー攻撃から守ります。定期的に取得されるイミュータブルスナップショットにより、バックアップデータを攻撃前の健全な時点に巻き戻すことが可能です。

[Top へ戻る](#)

Q2. CRS と Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage（クラウド CRS）の違いは何ですか？

Arcserve Cyber Resilient Storage（以下 CRS と略記）は、お客様が用意するサーバハードウェアに CRS ソフトウェアをインストールして利用します。セキュアな社内ネットワーク回線を利用するため、外部ネットワークの回線状況に影響されないバックアップリストアが可能なことがメリットです。

クラウド CRS ではインターネット経由でクラウド上のストレージにバックアップデータを送ります。ストレージのハードウェアを用意する必要がないため、導入しやすいのがメリットです。

[Top へ戻る](#)

Q3. CRS はどのバックアップソフトと組み合わせて利用できますか？

CRS は Arcserve UDP に特化したストレージソリューションです。Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ（以下 RPS と略記）のデータストアデスティネーションとして利用することができます。

なお、Arcserve UDP 以外のバックアップソフトウェアと組み合わせて利用することはできません。

[Top へ戻る](#)

Q4. CRS はどのような仕組みでランサムウェア攻撃からバックアップデータを守りますか？

現在主流の侵入型ランサムウェア攻撃では社内ネットワークに侵入した上でバックアップデータを破壊します。そのため、Arcserve UDP 利用環境でまず警戒するべきは RPS への攻撃です。

RPS と CRS はデータが分離されており、また CRS はファイル共有ではないプロトコルで RPS と連携しているので、仮に RPS に侵入されたとしても CRS 上のデータを破壊することはできません。

万が一 CRS に侵入されたとしても、管理者でも削除できない不变スナップショットが保持されているので、そこから攻撃前の状態にデータを戻すことができます。

[Top へ戻る](#)



Q5. CRS を使用するために必要な環境は何ですか？

お客様環境に Arcserve UDP 10.2 以降の Arcserve UDP コンソールと、復旧ポイントサーバ（以下、RPS と略記）が必要です。CRS は RPS のデータストア デスティネーションとして利用されます。

なお、CRS は常時インターネットへのアウトバンド接続が必要です。

詳細は [CRS 注意制限事項](#) を参照ください。

[Top へ戻る](#)

2 機能/利用方法

Q6. RPS が全損しても、CRS に残っているデータのみで RPS データストアを再構築できますか？

はい、RPS が全損したとしても、CRS 上のデータさえあれば、RPS データストアをインポートして再構築できます。

ただし、データストア フォルダやインデックス デスティネーションについては、15 分間隔で RPS から CRS に同期されているため、インポートされるデータストアは最長で 15 分前の状態になる可能性があります。

[Top へ戻る](#)**Q7. CRS を使ったデータストアに、Arcserve UDP で継続的な増分バックアップが行えますか？**

はい、継続的な増分バックアップが行えます。定期的なフルバックアップは不要です。

[Top へ戻る](#)**Q8. CRS は 2 次バックアップや 3 次バックアップ先として利用できますか？**

はい、可能です。CRS は RPS のレプリケート先としても利用できます。

なお、1 台の RPS に重複排除が有効なデータストアを 2 つ（例えば RPS のローカルディスクにあるデータストアと、CRS のデータストアなど）接続して使用する場合は、2 つのデータストア分のリソースが RPS に必要になります。詳しくは、[Arcserve CRS シリーズ 紹介資料](#)をご覧ください。

[Top へ戻る](#)**Q9. Arcserve UDP Appliance と併用できますか？**

はい、Arcserve UDP Appliance の内部データストアを 1 次バックアップ先、CRS をデスティネーションとするデータストアを 2 次バックアップ先（レプリケート先）として利用できます。

[Top へ戻る](#)**Q10. Arcserve UDP の圧縮や暗号化、重複排除機能は利用できますか？**

はい、利用できます。重複排除については必須となります。重複排除のブロック サイズは 64 KB で固定です。

[Top へ戻る](#)

Q11. CRS から、バックアップ対象ノードのベアメタル復旧はできますか？

はい、可能です。ベアメタル復旧ウィザード内で、RPS および RPS に接続されている CRS ベースのデータストアを参照します。

ただし、RPS 自体が破損した場合は、RPS の再構築かシステム復旧が必要になります。RPS 自身のベアメタル復旧は重複排除が有効なデータストアからは行えないため、RPS 自身のバックアップは CRS 以外の場所に保存してください。

[Top へ戻る](#)**Q12. Arcserve UDP がバックアップやマージを行っているタイミングでスナップショットを取得できますか？**

はい、できます。CRS は、Arcserve UDP によるストレージへの書き込みを一時停止し、静止点を確保した状態でイミュータブルスナップショットを取得します。これにより Arcserve UDP のジョブへの影響を最小限にしながら、スナップショットの整合性が保たれます。

ただし、ランサムウェア攻撃発生時に復旧地点を明確にしたい、という観点では、バックアップ/レプリケート等のジョブが終わる後のタイミングを狙ってイミュータブルスナップショットの取得スケジュールを設定することをお勧めします。

[Top へ戻る](#)**Q13. CRS をデスティネーションとするデータストアを、スナップショットを元に復元した場合、****既存の最新のバックアップ データは無くなりますか？**

いいえ、最新のバックアップデータは無なりません。イミュータブルスナップショットは元のデータストアとは別な読み取り専用データストアとしてインポートされます。そのため、既存のデータストアは並行して利用できます。

[Top へ戻る](#)**Q14. 攻撃者が Arcserve UDP コンソールの管理アカウントを乗っ取り、イミュータブル スナップショットの保存期間を"1"など小さい数に減らしてしまった場合は、既存のスナップショットは削除されてしまいますか？**

いいえ、イミュータブルスナップショットの保存期間を変更しても、今後取得されるスナップショットの保存期間が変更されるだけで、既存のスナップショットは削除されません。

CRS のスナップショットは、取得時に設定されている保存期間に従って保存/破棄されます。

[Top へ戻る](#)

3 購入方法

Q15. 後から容量の追加は可能ですか？

はい、リソースの追加は可能です。追加分のサブスクリプションを購入する際に、追加先のサブスクリプション契約のオーダー ID を登録用紙に記載の上、販売店にご注文ください。

[Top へ戻る](#)

Q16. 容量追加の際に、サブスクリプションの終了日を元契約と揃えることはできますか？

はい、可能です。契約更改がシンプルになるので、終了日を揃えることをお勧めしています。個別での対応になるので、販売店経由で購入前にご相談ください。

[Top へ戻る](#)

Q17. サブスクリプションはいつまでに更新すればよいですか？

サービスの継続利用を希望される場合は、サブスクリプション期間が終了するまでに継続のご注文をいただき、お客様にてライセンスキーの登録を行っていただく必要があります。従いまして、サブスクリプション終了日の5営業日前までに Arcserve へ継続の注文が届くように手配ください。目安として2週間前までに販売店へのご発注をお願いいたします。

[Top へ戻る](#)

Q18. サブスクリプション期限が切れるまでに、Arcserve から通知はありますか？

はい、サブスクリプション期限の3ヶ月前に電子メールでお知らせいたします。通知先のメールアドレスはサブスクリプションの購入時に登録いただいたエンドユーザ様のメールアドレスです。担当変更などでメールアドレスが変わった場合は、[Web フォーム](#)にて登録情報を変更してください。

[Top へ戻る](#)

Q19. サブスクリプションの複数年契約は可能ですか？

はい、3年または5年サブスクリプション型番がございますので、そちらをご注文ください。

[Top へ戻る](#)

Q20. CRS の筐体に含まれるすべてのストレージ容量のライセンスを購入する必要がありますか？

必要ありません。例えば CRS の筐体に 10TB のストレージ容量がある場合に、CRS 内に保存するバックアップデータに合わせて必要な容量分（例：5TB）のサブスクリプションライセンスをご購入ください。

なお、CRS に保存されたライセンスの対象となるバックアップデータ量については CRS のコマンドラインインターフェースから “filesystem list” コマンドを実行して確認が出来ます。

◎コマンド実行画面例：

```
> filesystem list
POOL      FILESYSTEM USED     FREE   STATUS    RPS    DATASTORE PORT
crspool1  crsfs3    21.2G  459.4G online  udp102  crsds1   5000
> -
```

[Top へ戻る](#)

